



4年前、市議2期目の活動のまとめとして、黄色いリーフレットを作成しました。そこで取り上げた課題が今現在どのように進化しているか、簡単にまとめましたので、ぜひ、リーフレットと合わせてご覧下さい。

あらためてリーフレットを読み返し、根底にある想いは今も変わらないと感じました。

その想いとは

身近なところから小さな成功体験を一つ一つ積み上げていくこと

黄色いリーフレットとこの成果報告はその小さな成功体験の具体例です。

それは、私自身の活動の事例ですが、それは、それぞれに関わった有権者の「政治も満更ではないな」という感覚の積み上げでもあります。

私はその感覚を拡げ、積み上げることが、やがて、政治への信頼を取り戻し、**政治に力を与える**、と信じます。

杉本康之

そして新たなテーマ

子育ての応援にも「団塊パワー」を

子育てベテランのお母さんの力を保育士の応援に。シニアの豊富な経験と知識を「土曜学校」に。三世代交流で子育て世代をサポートし、地域の「つながり」も深めます。

エネルギーの自産自消でエコ&エコ

東電だけに頼らず、ごみ発電や太陽光と蓄電池のセットなど、エネルギーの地産地消を実現すれば、環境にも優しく、また市内でお金が循環するので街も元気にします。

在宅チームマネジメントで心おだやかに

老後の不安は、老後の資金と病気や介護。いつまでも働いて地域に役立てる街を。また「在宅療養」のカギは、マネジメント力を高め、医療と介護の最高のチームをつくること。

これらを実現するのに大事なものは

ミスしても素直に認め、失敗を繰り返さない行政をつくること。オカシイことはオカシイといい、条例案を自ら作る議会をつくること。そのためには行政や議会にお任せではいけません。

一人一人の市民が意志を持つこと。選挙がとても大切です。そしてみんなが積極的に地域に関わること。「つながり」が、あなたの悩みや不安、地域の課題を解決します。

みんなでまちをつくる

ぜひ、力を合わせてがんばりましょう！

4年の成果報告

黄色いリーフレットから

前進



※黄色いリーフと合わせてご覧下さい

駐輪場 (→P4)

多磨霊園駅北駐輪場が国の天下り団体から市へ譲渡されました。駅頭での市民の声がきっかけでした。これにより**600万円の黒字**が見込まれます。

車返付地で税返還 (→P22)

鑑定評価のミスを市が認めず住民から訴えられた(H21)裁判で、府中市が敗訴(最高裁で確定)。杉村の議会発言が証拠にもなりました。**固定資産税が返還・軽減**される見込みです。

栄町にバス路線 (→P6)

新路線が開通し、栄町の**交通不便地域が解消**。ただ、武蔵台地区は手付かず。市民聖苑までの東西路線も実現せず。

事業仕分けが実施 (→P10)

PDCAサイクルを踏まえ、**事業仕分けが導入**された。何のための事業か、行政の目的意識を明確にします。

学校を地域の拠点に (→P30)

第9小学校などで、**地域住民主催の防災訓練**が行われています。その「つながり」がまた子供・高齢者の見守りや自治会活動を深めます。

指定管理者 (→P8)

生涯学習センターで**指定管理者の公募**が実現。芸術劇場など非公募のままのところも多いが緊張感は増えています。

やや前進

ICTの活用 (→P26)

学校の**ICT導入**は徐々に進行。**市議会のネット中継、議会の委員会議事録公開**も実現。「在宅療養」など福祉への活用はこれからです。

まだまだ



ごみ問題 (→P12,14,16)

ごみ有料化から4年。大義名分だった「資源の節約」「温暖化防止」への効果は、いまだ測られていません。一方、ごみ袋収入は4.7億円と大きいですが、広報紙「府中のごみ」を見てもごみ処理全体の収支は不透明です。

稲城の焼却場は建設から16年。寿命30年、建設4年とすると、そろそろ次に向けた議論を始める時期でしょうか。

子育て応援券 (→P28)

地域の事業を育てる有効な手段だが、市の発想はいまだに補助金を一方的に配る、です。

府中のエコ (→P18)

府中市のエコは成果が測られてない。やっています、というポーズだけと言われかねません。

学校を地域で応援 (→P20)

教育委員に親の代表が選ばれ、地域に開かれた教育行政が期待されます。府中版コミュニティスクールも実践され、学校を地域で支えるしくみが進行しています。しかし公立不信は根強い。今後は、地域運営の「土曜学校」などで、基礎学力の向上や心のケアもサポートしていきたい。

